

### 1 2030年における地域のめざす姿

#### ○元気なものづくり産業の集積とエネルギー・リサイクルの進んだ地域

経営力の高いものづくり企業の増加、地域特性を生かした新たな成長分野への参入、地域産業に密着した誘致企業の立地、創業・起業へのチャレンジなどが進み、自然災害や景気変動にも強く地域をけん引する多種多様な産業が集積するとともに、地元就職し、活躍する若者や女性が増加しています。

また、地域特性を生かした多様な再生可能エネルギーの高度利用や地域企業の新規参入が進んでいます。

#### ○力強い経営体が地域を支える農山漁村

農山漁村では、生産物の高品質化や積極的な情報発信、販売力強化などにより、おうとうやにんにく、イカ、サバなど様々な地域産品のブランド力が向上し、競争力のある農林水産物が生産、販売されるとともに、6次産業化等新たなビジネスの拡大により域内外市場産業との取引が拡大しています。

また、地域を支える農林水産業を基盤とした多様な経営体が育ち、高齢者も取り組むことのできる生産体系、ロボット技術やIoT、AI等を導入した生産の効率化などにより、労働力の減少や高齢化に対応した農林水産業が展開されるとともに、多様な経営体による地域コミュニティへの貢献活動が行われています。

#### ○国内外から選ばれる、行ってみたくなる観光地

DMO<sup>※</sup>を中心として、地域の団体・事業者等が連携しながら、競争力の高い魅力ある観光地づくりに取り組んでおり、豊かな自然・歴史・文化・食・祭りなどが観光コンテンツとして融合し、三八地域ならではの新たな魅力が生まれるとともに、独自の価値を体験できる観光商品が充実し、三八地域が国内外から、訪れるべき地として認められています。

観光施設や交通アクセスの充実、おもてなしの向上、インバウンド対応等により、訪れた観光客の誰もが自由に楽しめる、気持ちよく滞在できる受入環境の整備が進展しています。

※DMO：Destination Management/Marketing Organization の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役となる法人のことです。多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えています。

## ○健康、長寿で、生き生きと安心して暮らせる地域

地域住民一人ひとりが、健康的な生活習慣づくりや疾病予防などへの高い意識を持ち、健康寿命が延びています。

また、地域住民による互助の意識が暮らしの中に浸透し、誰もが安心して老後を迎えることができる地域づくりがなされています。

## 2 地域の概要、特性と課題 ～めざす姿の背景～

### (1) 地域の概要

#### ○八戸圏域連携中枢都市圏による地域連携

三八地域は、県の南東部に位置し、東は太平洋に面し、西は秋田県に、南は岩手県に接しており、面積は1,275平方キロメートル（県土の13.2%）となっています。

年間を通して穏やかな気候で、夏は偏東風（ヤマセ）の影響を受け冷涼で、冬は晴天が多く乾燥しています。降雪量が少なく、年間日照時間が長いことが特徴です。

当地域の中心都市である八戸市は2017（平成29）年に中核市に移行し、これを受け、同年、連携中枢都市圏<sup>※</sup>の連携協約（三八地域の7市町村及びおいらせ町）が締結されました。「経済成長のけん引」、「高次の都市機能の集積・強化」、「生活関連機能サービスの向上」をめざし、八戸圏域連携中枢都市圏ビジョンを策定して、連携事業を推進しています。

※連携中枢都市圏：人口20万人以上の中心市を中核にして、周辺自治体が広域で連携し、地域課題の克服や地域活性化に取り組む仕組みのことです。

#### ○多彩な農林水産資源とものづくり産業の集積

日本有数の水産基地である八戸漁港を有し、イカ、サバ、イワシなど多様な水産物の水揚げがあり、古くから水産加工を始めとする食料品製造業が集積しているほか、にんにくやながいもなどの野菜や、おうとうや西洋なしなどの果樹の栽培、肉用牛や飼料コンビナートを生かした養豚・養鶏、南部アカマツに代表される林産物など、多彩な農林資源にも恵まれています。

また、地域には、17の工業団地が整備され、鉄鋼・非鉄金属、製紙、化学、半導体製造装置、情報通信機器、自動車・航空機搭載部品、ソフトウェア産業などが立地し、東北有数の産業集積地となっています。

## ○青森県と国内外をつなぐ交通・物流の拠点

東北・北海道新幹線により、八戸・東京間が3時間弱で結ばれているほか、東北縦貫自動車道八戸線等の高速道路網、本州と北海道を結ぶフェリーが就航する八戸港、近隣に三沢空港が整備されています。重要港湾である八戸港は、国際コンテナ定期航路として2つの国際航路と3つの内航フィーダー航路<sup>※</sup>を有しており、当地域は、北東北における陸・海・空の高速交通の結節点であるとともに、物流拠点にもなっています。地域の町村には、JR八戸線、青い森鉄道や路線バスが接続し、20～60分程で移動可能となっています。

※内航フィーダー航路：国内の主要港湾と国内各地の港を結ぶ国内2次輸送航路のことです。

## ○教育機関や産業支援機関の集積

八戸工業大学、八戸学院大学、八戸工業高等専門学校などの高等教育機関、青森県産業技術センター（八戸工業研究所、食品総合研究所）、株式会社八戸インテリジェントプラザを始めとする試験研究機関、産業支援機関などを有し、人財育成や研究開発、産業支援の体制が整っています。

## ○エネルギー分野の取組が進む地域

三八地域は、日照時間の長さを生かし、県内でも太陽光発電の導入が進んでいる地域の一つであり、東北電力初のメガソーラー発電所である八戸太陽光発電所が2011（平成23）年12月に稼働したほか、2015（平成27）年にはLNG輸入基地が、2018（平成30）年には八戸バイオマス発電所がそれぞれ運転を開始しています。

## ○三八地域ならではの多様な地域資源

三八地域には、三陸復興国立公園に指定された種差海岸や階上岳、みちのく潮風トレイルなどの自然、ユネスコ無形文化遺産に登録された八戸三社大祭や国指定重要無形民俗文化財である八戸えんぶりなどの祭り、是川縄文館や南部利康霊屋などの歴史、館鼻岸壁朝市や横丁などの文化、八戸せんべい汁や田子ガーリックステーキごはん、馬肉料理などの食、八食センターや道の駅、産直施設などの物販拠点といった地域資源に恵まれているとともに、豊富な農林資源を活用したグリーン・ツーリズムが盛んです。

また、ヴァンラーレ八戸FC（サッカー）、東北フリーブレイズ（アイスホッケー）、青森ワッツ（バスケットボール）などプロスポーツの観戦機会も多くあり、観客数を増やしています。

## (2) 地域の特性と課題

### ○構成市町村ごとの人口と世帯数

三八地域の人口は29万9,225人で、このうち八戸市が約77.3%を占めています。県全体に占める地域の人口の割合は22.9%です。(表1)

表1 構成市町村の人口・世帯数

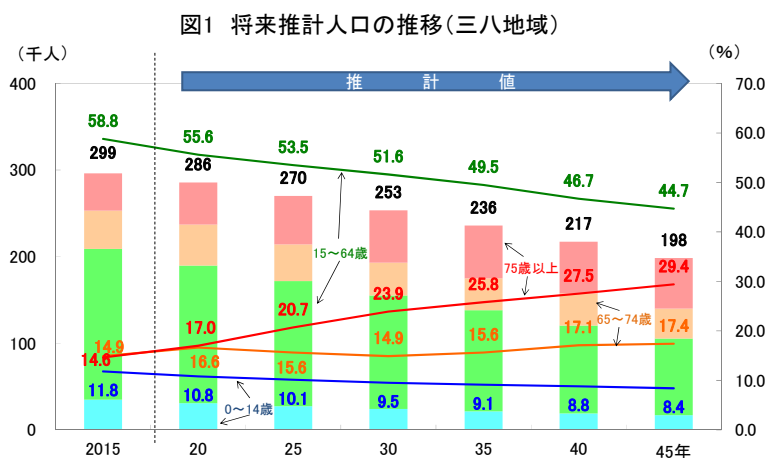
	八戸市	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村	合計
人口(人)	231,257	10,135	17,433	5,554	18,312	14,025	2,509	299,225
世帯数	93,750	3,756	6,123	2,006	6,419	5,699	831	118,584

資料:総務省「平成27年国勢調査」

### ○将来推計人口の推移

三八地域の人口は、2030年の時点では25万3,479人と、2015(平成27)年と比べ、4万5,746人、15.2%減少する見込みです。

年齢別に見ると、老年人口の割合が増加を続け、2030年には人口の38.8%まで上昇すると見込まれており、このうち、75歳以上の割合は、23.9%に達する見込みです。(図1、表2)



資料:総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「市町村別将来推計人口(平成30年3月推計)」

表2 構成市町村別将来推計人口

	2015年	2030年	2045年
八戸市	231,257	201,803	162,127
三戸町	10,135	7,083	4,563
五戸町	17,433	13,404	9,304
田子町	5,554	3,893	2,529
南部町	18,312	13,817	9,667
階上町	14,025	11,715	8,970
新郷村	2,509	1,764	1,133
計	299,225	253,479	198,293

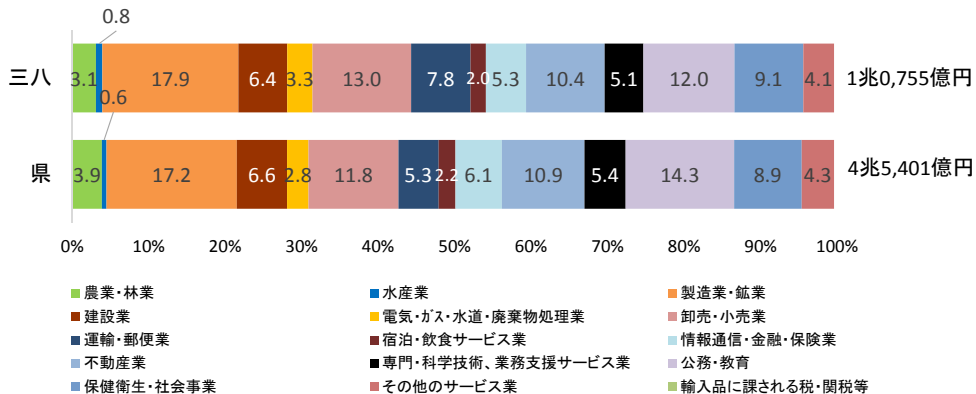
資料:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

### ○域内総生産の経済活動別構成

2015(平成27)年度の域内総生産は1兆755億円となっており、県全体の23.7%を占めています。内訳を見ると、「製造業・鉱業」、「卸売・小売業」、「公務・教育」、「不動産業」の割合が高くなっています。

県全体と比べると、「製造業」、「電気・ガス・水道・廃棄物処理業」、「卸売・小売業」、「運輸業」の割合が高く、「農業・林業」や「公務・教育」の割合が低くなっています。(図2)

図2 域内総生産の経済活動別構成



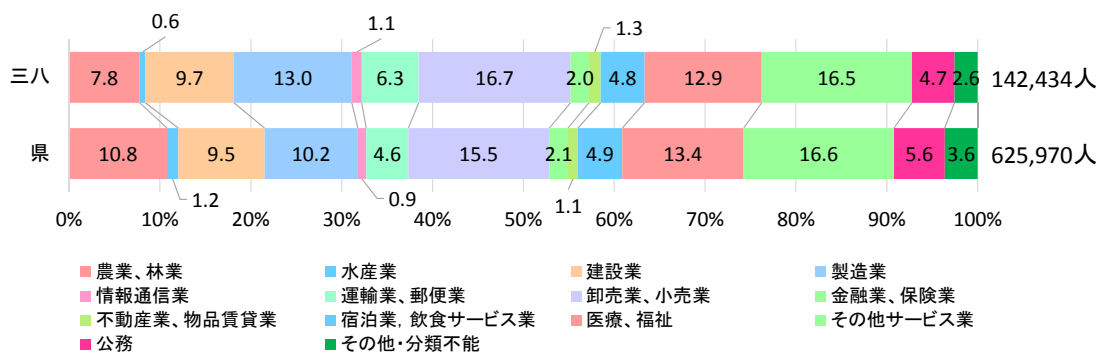
資料：県企画政策部「平成27年度市町村民経済計算」

### ○就業人口構成

2015（平成27）年の就業人口は14万2,434人となっており、県全体の22.8%を占めています。内訳を見ると、「卸売業、小売業」の割合が最も高く、次いで、「その他サービス業」、「製造業」の割合が高くなっています。

県全体と比べると「製造業」や「卸売業、小売業」の割合が高く、「農業、林業」の割合が低くなっています。（図3）

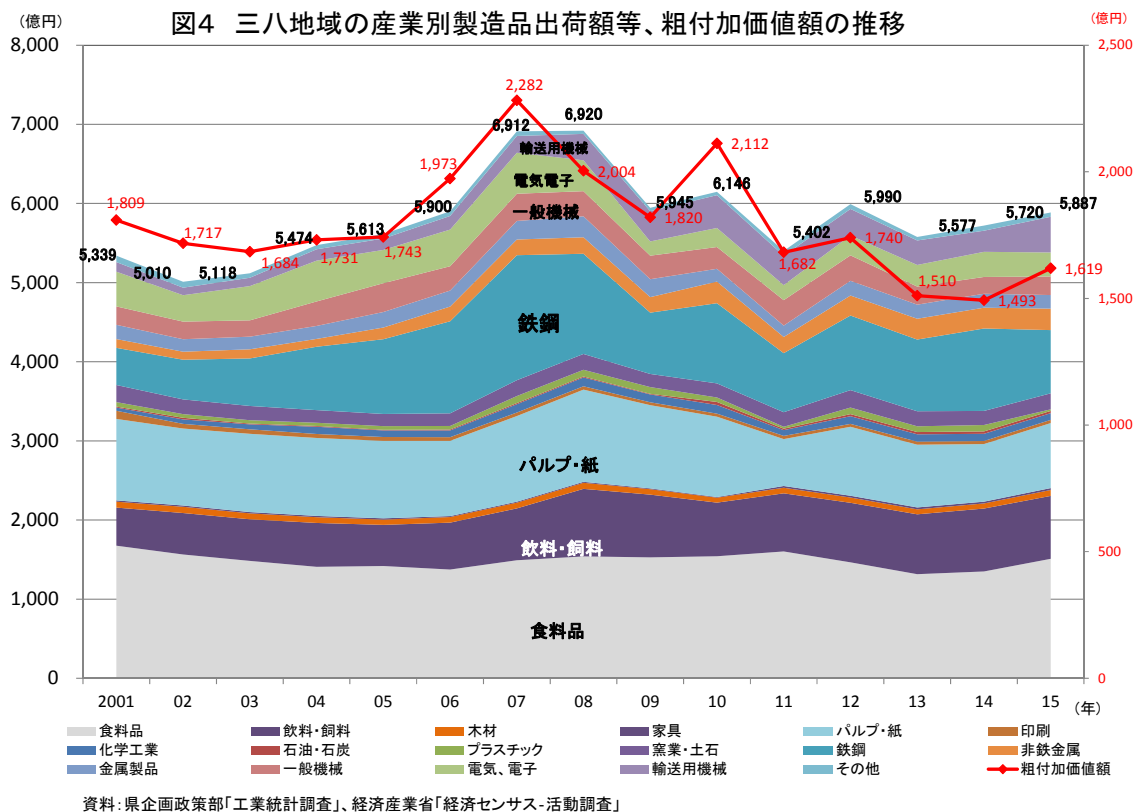
図3 地域の就業人口構成



資料：総務省「平成27年国勢調査」

### ○製造品出荷額等

製造品出荷額等は、2008（平成20）年9月のリーマンショックによる急激な経済情勢の変化、2011（平成23）年3月に発生した東日本大震災により落ち込んだ後、回復基調にはありますが、粗付加価値額は、まだ震災以前の水準まで回復していない状況です。（図4）



### ○農業就業人口の推移

2015（平成27）年の農家戸数は、8,212戸で県全体の約18.3%を占めています。2000（平成12）年からの15年間で3,330戸減少していますが、減少率は県全体より幾分緩やかになっています。

農業就業人口も15年間で、7,776人減少し、特に65歳未満の減少が著しく、今後も高齢化の進行が見込まれます。（表3）

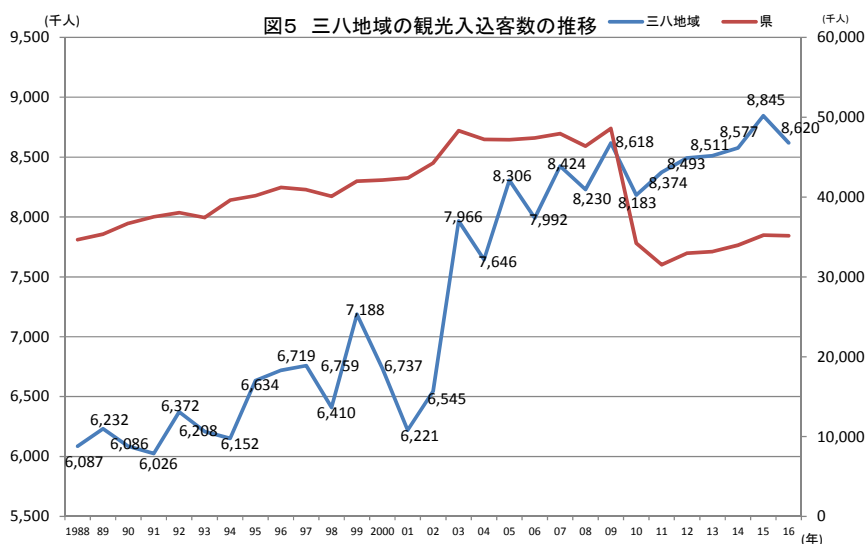
表3 農業就業人口の推移

年次	農家戸数 (人)		農業就業人口 (人)		農業就業者の年齢構成 (%)		
	県	三八地域	県	三八地域	※上段：三八、下段：県		
					15～39歳	40～64歳	65歳以上
2000(平成12)年	70,301	11,542	109,550	18,245	11.8%	42.2%	45.9%
					12.9%	44.6%	42.5%
2005(平成17)年	61,644	10,546	96,794	15,810	10.0%	38.7%	51.3%
					10.5%	40.9%	48.6%
2010(平成22)年	54,210	9,598	80,483	13,059	7.2%	37.9%	54.9%
					8.5%	40.1%	51.3%
2015(平成27)年	44,781	8,212	64,746	10,469	7.2%	35.0%	57.8%
					▲36.3%	▲28.9%	▲40.9%

資料：農林水産省「世界農林業センサス」及び「農林業センサス」

## ○観光入込客数

観光入込客数の推移を見ると、2002（平成14）年12月の東北新幹線八戸駅開業を契機として急激に増加しました。東日本大震災の影響により一時的に落ち込んだものの、現在は上昇傾向にあります。（図5）



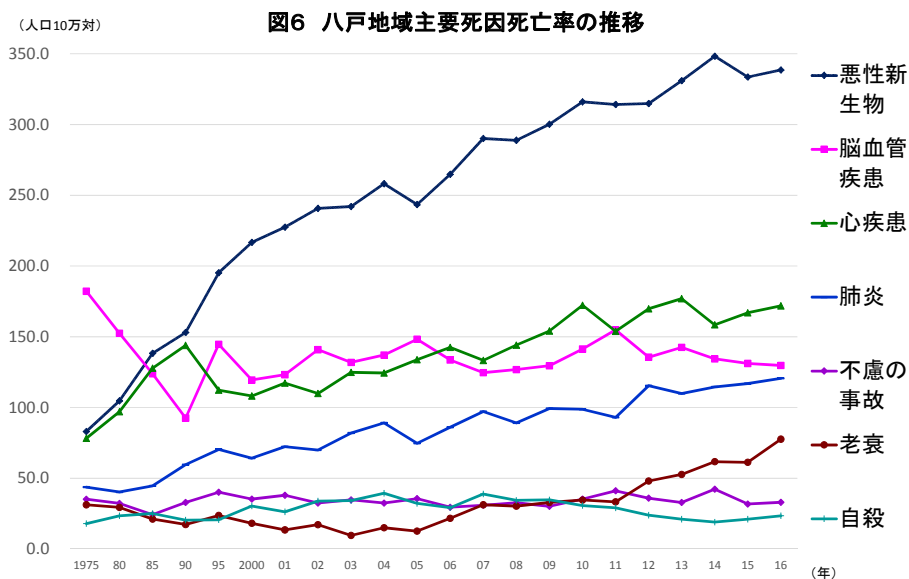
資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

※2010（H22）年以降は統計手法の変更により、それ以前と単純比較できない。

※2011（H23）年は対象施設を増やしたことが入込数の増加要因となっている。

## ○主要死因死亡率の年次推移

八戸地域の主な死因の順位は、2012（平成24）年以降、第1位は悪性新生物、第2位は心疾患、第3位は脳血管疾患で、全死因に占める三大死因の割合は約5割を占めています。（図6）



資料：県健康福祉部「保健統計年報」

※八戸地域の構成市町村は、八戸市、おいらせ町、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村である。

### 3 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

#### (1) ものづくり産業の活性化とエネルギー関連産業の振興

産業基盤、製造業の集積と高い技術力、教育・研究機関や産業支援機関の充実、インフラが整備された国際物流拠点といったポテンシャルを生かし、産学官金連携など地域が一体となって、地域企業の経営力強化や、企業間連携、新たな成長分野への参入といった三八地域ものづくり産業の活性化に向けた取組を推進します。

また、地域特性を生かした多様な再生可能エネルギーの高度利用や新規企業の参入など、エネルギー分野での先進的取組を生かした関連ビジネスを推進します。

#### 【主な取組】

- ①地域企業のマーケティング力向上や企業間の連携等による受注機会の拡大及び海外を含む地域外への販路開拓の促進
- ②新商品・新技術の開発、地域の技術や資源を生かした新たな成長分野への参入促進
- ③IoTやAIの活用などによる地域企業の生産性向上の取組の促進
- ④地域経済の活性化を支えるものづくり関係者などによるネットワーク形成と一体的取組の推進
- ⑤地域産業を担う多彩な人財の確保・育成・定着と、ものづくり分野などの創業・起業の促進
- ⑥太陽光、バイオマスなど多様な再生可能エネルギーの導入促進や熱エネルギー等の利活用、エネルギーの地産地消の取組の推進
- ⑦高等教育機関との連携によるエネルギー分野における人財の育成

#### (2) 農林水産資源の高付加価値化と人財・経営体の育成

安全・安心、高品質で多彩な農林水産物の生産を基盤として、食品製造業の集積の高さを生かした農商工連携などにより農林水産資源の付加価値を高めるとともに、農山漁村の維持・発展に貢献する人財・経営体の育成、確保を推進します。

#### 【主な取組】

- ①安全・安心な農林水産物の安定生産
- ②磯根資源の育成と資源管理型漁業の推進
- ③豊かな食文化を生かした地産地消の推進



- ④農林水産物の高品質化やICTなどを活用した積極的な情報発信などによるブランド力の向上と販売力の強化
- ⑤農林水産資源の高付加価値化と農商工等の連携による6次産業化の取組拡大
- ⑥農山漁村の社会を支える人財・地域経営体など担い手の育成

### (3) 広域観光の更なる推進

DMOの設立を契機とする競争力の高い魅力ある観光地域づくりや行ってみたいとなるエリアのイメージ確立、国内外からの誘客強化に取り組み、交流人口や観光消費額の拡大を推進します。

#### 【主な取組】

- ①DMOの設立による広域観光推進体制の充実と連携の強化
- ②マーケットと三八地域の観光資源の特徴を踏まえた独自の価値を体験できる観光の推進
- ③ターゲットに届く情報発信の強化
- ④インバウンド対応やホスピタリティの向上、観光施設・観光案内・交通アクセスなどの受入態勢の充実
- ⑤グリーン・ツーリズムやブルー・ツーリズム<sup>※</sup>、産業観光、豊かな食を生かした観光、地域の暮らしや文化、風土に密着したテーマ観光などによる国内外からの誘客促進

※ブルー・ツーリズム：漁村などに滞在し、漁業体験などを通じて地域の魅力にふれることを目的とした旅行スタイルのことです。

### (4) 健康、長寿で、生き生きと安心して暮らせる地域づくり

地域住民一人ひとりのヘルスリテラシー（健やか力）向上と生活習慣病予防に向けた環境づくりを推進し、壮年期死亡の減少と健康寿命の延伸をめざします。

また、保健・医療・福祉の体制の充実や生活機能の維持・確保、多様な担い手の確保・育成に取り組むことにより、「青森県型地域共生社会」づくりを進めます。

#### 【主な取組】

- ①住民の健康的な生活習慣の定着に向けた普及啓発と環境づくりの推進
- ②多様な担い手による介護予防や生活支援サービス等の提供体制整備の促進
- ③「青森県型地域共生社会」の実現に向けた多様な担い手の確保・育成と生活機能の維持・確保に向けた仕組みづくり
- ④地域づくりを担う人財の育成・活躍の促進や地域住民が互いに支え合う地域づくりの推進